

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3990100327		
法人名	株式会社 アイ・エム・シーライフステージ		
事業所名	IMCグループホーム大原		
所在地	高知市大原町88-2		
自己評価作成日	平成25年6月17日	評価結果 市町村受理日	平成25年9月6日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣には公共施設や集合住宅が混在しており、地域との関係性が希薄な状況であるが、近くのコンビニに買い物や散歩に出かけたりしている。事業者内で開催しているいきいき体操に参加するなど現段階で見出しており、運営推進会議などで地域の情報収集を行い繋がりを探している。開設して5年目を迎え、徐々に重度化が進む中で、ご入居者一人一人できる役割を見つけ関わることを大切に、個性や思いを尊重し一人一人が自分のペースで自立した生活が営めれることを基本と考え、職員は入居者の方を人生の大先輩と敬い、心のこもった関わりを意識しながらケアに取り組むように心掛けている。職員は、法人内の他施設と合同で介護技術講習会で技術を磨き、ご入居者一人一人に適した介助に努めている。また、ご入居者の方にとってホームでの暮らしが楽しく安心して送れるように職員が寄り添い、共に支え合うことを大切にしている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JgvosyoCd=3990100327-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JgvosyoCd=3990100327-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成25年7月18日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道から少し入った河川近くに位置し、近隣には公共施設や商業施設、集合住宅等が点在している。商業施設の多い地理的な環境から、管理者は地域住民との関係性を築くことに意識的に取り組み、事業所の地域交流ホールを「生き生き百歳体操」や「囲碁」に開放して積極的に住民に参加を呼び掛け交流している。最近では4～5名の住民が定期的に来訪し利用者と一緒に体操したり、囲碁を楽しむようになっている。また、地域住民との交流がさらに広がるように、事業所便りを地域の行政機関やスーパー、地区公民館などへ配布して広報に努めている。管理者は事業所の基本理念を職員に徹底し、利用者を人生の先輩として尊重することを意識づけている。また、職員に毎月の思いを「夢シート」に書いてもらい、管理者との意思疎通に役立てている。常に管理者と職員が共にケアの在り方を考え、利用者の生活の質の向上を目指して取り組んでいる事業所である。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名：1階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念・夢が浸透できるように職員全体で意味や考え方を統一できるよう朝礼などで話し合い理解を深めている。	朝礼時等の話し合いにより理念の理解と意識づけに努め、利用者には人生の先輩として常に敬語で接することを心がけている。職員に理念にそぐわない言動が見られた時は、時間と場所を変えて話し合っている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや保育園の運動会へ参加。また地域交流ホールでいきいき体操に参加することで地域の方と交流を深めている。地域・広報委員会を中心に地域とつながっていく取り組みを検討している。	事業所の地域交流ホールに毎週2回近隣住民が4～5名集まり、利用者と一緒に「いきいき百歳体操」を行い、その後に囲碁を楽しんで交流している。また、事業所だよりを公民館や商業施設に配付して広報し、事業所の存在を地域に周知している。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前回と同様で運営推進会議を通じて、事業所の理解を深められるよう努めている。また、広報誌の作成へ向けての検討も行っている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、事業所の活動状況等を報告し、各委員の意見を取り入れサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は併設する小規模多機能施設と合同で開催している。各事業所の現況報告や事故報告があり、取組み等について意見交換を行っている。ただし、議事録が併設事業所と合同で記録されているため分かりにくい。	運営推進会議を合同で行うことによる効果や効率性は理解するが、事業所毎に議事録を作成することや、外部評価結果も家族に送付して事業所の取り組みを伝えることを期待したい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議やグループホーム連絡協議会に参加し、課題などあれば相談できるように協力関係を築けるように心掛けている。	運営推進会議において事故報告の内容や困難事例等について市から意見や助言をもらっている。市主催の研修会やグループホーム連絡協議会などにも参加して、市との協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア会や勉強会を開催し、身体拘束について話し合い意識を高め、拘束しないケアに取り組んでおり、夜間帯以外は玄関の施錠はしていない。また、声掛けによる抑制についても配慮している。	毎月のフロア会や全体会の場で身体拘束禁止のマニュアルに基づき不適切なケアや言葉による抑止について学習している。虐待などの研修にはフロア長等が参加し、職員にフィードバックしている。転倒リスクやヒヤリハットへの取り組みで意識を高め、家族とは身体拘束をしないケアについて話し合っている。夜間以外施錠はしていない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の講習内容を事業所で勉強会として取り組んでいる。不適切ケアが虐待に繋がることを再認識し、職員間で意識を高めケアに当たっている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当事例はない為、今後も十分理解を深めていく必要がある。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を設け契約、重要事項に基づき説明させてもらっており、ご家族が不安や疑問点を話しできるように雰囲気作りにも心掛けている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際や電話連絡の際に、話しやすい雰囲気を心掛け、こちらからコミュニケーションを図り、意見や要望を伺っている。また、ご家族会や運営推進会議も活用し運営に反映できるようにしている。	家族会は行事に合わせて食事しながら年2回開催している。半数ほどの家族が出席しているが、家族同士の話し合いが持っていない。今後の家族会の時期や方法などについて検討中である。家族からの意見や苦情は個別に聞くようにしている。	家族会に参加している家族の中で当日の進行役を決めるなど、家族に負担の少ない方法を工夫して家族同士が忌憚のない話ができる場を設けることを期待したい。
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見を言いやすい雰囲気を作っているのに加え、フロア会などで意見を吸い上げられるようにしている。また、幹部会で話し合い意見が反映できるようにしている。	日頃の会話やフロア会で職員の意見や提案を聞き、フロア責任者が取りまとめて法人の幹部会に伝えている。各職員は毎月自分の思いを「夢シート」に書いて管理者に提出し、普段言い難いことなども管理者と話せる時間を設けている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境について、その都度職員と面談する機会を設け、意見を聴き考慮している。福利厚生充実により働きやすい職場作りを取り組んでいる。また、やりがいに繋がるように法人内の他施設と介護技術講習会を実施している。その他、交流イベントも実施予定である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政が主催する自立を目指す研修会への参加やフロア長研修の講習内容を毎月の勉強会でフィードバックし、資質向上に努めている。また、日々のケア方法を観察し、リアルタイムに助言している。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会へ参加することで情報交換を図ったり、定期的に法人内の事業所と介護技術講習会を開催するなどサービスの質の向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、心身状況や置かれている生活状況を把握し、どういった生活を送ってきたのか、また、今後どのような生活を送りたいのかご意向など伺い信頼関係を築けるように努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階から、不安や要望が話しやすいように雰囲気作りに心掛け、利用経緯を含めご意向などを聴き関係づくりに努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時に、ご本人の生活状況をご本人やご家族から聞き取り、他のサービスを含め適しているかを検討している。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の意思を尊重し、入居者の意向に沿った介護を基本とし敬いながら関わる事を心掛けることで、暮らしを共に支え関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<b>○本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子を面会時や必要に応じて電話連絡で伝え、ご家族の意向なども聴くようにし、入居者とご家族の関係を大切に築いている。		
20	(8)	<b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力してもらいながら、馴染みの場所や知人や親類と会う機会を作っている。また、電話をかけたり、来設しやすい雰囲気や心掛けるなど関係が途切れないように努めている。	ドライブで利用者の思い出の場所に立ち寄り、家族の協力で自宅に帰り馴染みの人に会っている。また、曜日ごとの市での買物や、近くのコンビニエンスストアへ散歩を兼ねて食品を買いに行くことで馴染みの場所ができています。理美容は2か月毎に訪問があり馴染みになっている。	
21		<b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事活動や行事・食事などを通じて、入居者同士の交流が図れるように職員が間に入り手助けをし良い関係作りに努めている。		
22		<b>○関係を断ち切らない取組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族に連絡し、病院へのお見舞い行くなど関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<b>○思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居の際に、ご本人やご家族から生活歴などを聞き取りご本人の立場に立って思いや意向を把握し、入居後も生活の中で、ご本人の思いや日常の会話や表情から読み取り確認している。	入居前の生活歴や意向等を利用者及び家族から聞き取り、入居後の生活の様子や表情、会話などから利用者の思い等を汲み取っている。ほとんどの利用者が意思の伝達ができることから、利用者の希望に沿った支援に取り組んでいる。	
24		<b>○これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、ご本人やご家族から生活歴を伺い、入居後もご家族から情報を把握するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方を観察し、毎日のミーティングや記録を通じて職員間で情報を共有し把握するように努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のミーティングやフロア会を通じてケアの実践状況や気づきなどを職員間で情報共有すると共に、介護計画に繋がるよう見直しを図っている。また、ご家族にご意向を伺い介護計画の反映に努めている。	利用者のアセスメント内容や、モニタリング結果をフロア会で話し合い、計画作成者が中心になってカンファレンスを行い介護計画を作成している。家族にはカンファレンス終了後に意向の確認をしている。見直しは3カ月を基本とし、状態に変化があれば随時見直している。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子や状態変化など、個人ケースや日誌に記録している。また、職員間で共有し、介護計画の見直しにつなげている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況によっては、通院の付き添いや買い物など柔軟に対応している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で地域代表者から、地域の情報収集に努め、接点を見出せるように努めている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、ご家族の希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。ご家族の付き添いを基本としているが、状況に応じて職員が柔軟に対応している。また、必要なときはかかりつけ医と連絡を取り合い連携を図っている。	入居前からのかかりつけ医に受診している。受診は家族対応を基本とし、困難な時は職員も対応している。薬は法人の薬局に依頼すれば配達もある。協力医の往診が月2回あり、希望してかかりつけ医を変更する利用者もいる。受診結果は家族等から報告を受け記録し、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週に1～2回勤務。それ以外でも24時間連絡を取れる体制を作っている。また、看護連携マニュアルに基づき入居者の健康管理について介護職員と共有し、連携を図っている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、かかりつけ医に定期的に連絡や面会に伺い、早期に退院できるよう連携を図っている。また情報収集や関係づくりに努めている。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針に基づき、事業所での対応できる支援について説明し、ご家族から同意を得ている。看取り事例はないが、今後、安心して看取りができる体制を作っていく。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」に基づき家族に説明し同意を得ている。終末期と判断された時に、再度家族の意向を聞き、医療・看護・介護の連携のもとに事業所での対応が可能かどうかを検討することになっている。現在本部と看取りの体制について検討している。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時に速やかに対応できるように、新人研修や勉強会など機会を設けている。また、定期的に消防機関の協力を得て救命講習を受講する機会を作り、職員のスキルが上がるよう努めている。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルに沿って緊急連絡網を作成し、避難訓練実施している。今回は地域住民の協力は得れなかったが、運営推進会議の地域代表の方と協力体制は築けている。	防災訓練は年2回夜間や地震を想定して実施し、地域住民の協力が得られている。今後も地域住民には事業所だよりなどで協力依頼を継続していくことにしている。備蓄は浸水を想定して2階にサブバルパンや水・缶詰などを3日間程度用意している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から入居者を人生の先輩として敬い、携わる中でその人の性格などを知り、プライドや誇りを傷つけないよう行動、言動に配慮している。また、日々の朝礼で尊厳を守る事を確認している。	利用者のプライバシー保護について全職員に周知している。利用者の意思の尊重を基本理念にも掲げており、職員は利用者へ人生の先輩として敬意を持った言動で対応するようにしている。特にトイレ誘導などで不用意に大声などを出さないよう注意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティータイムで飲み物を選んでもらったり、食事、更衣など生活における場面でご意向を引き出し、自己決定できる場面づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事や談話など入居者一人一人の意思を尊重して、ゆったりと自由に過ごせれるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服などできる限り自己決定できるように支援している。その人らしいおしゃれや身だしなみができるよう化粧品を一緒に買いに出かけたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立や食材調達は業者依頼しており、入居者の嗜好を伝えている。食材切りや味付け、盛り付け、片付けなどできる役割は参加してもらっている。	献立は利用者の嗜好を考慮しながら委託業者の栄養士が作成し、食材が配達されている。利用者の嫌いなものやアレルギーのものがあれば代替食に変えている。また、月に1回利用者の好みのメニューを作ったり、他から食材の提供があったときは献立を変更している。職員は同じ物と一緒に食事をし、楽しい雰囲気を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者の栄養士が栄養バランスを考慮し、献立を決め、入居者の状態に応じて、食事形態を考慮し偏らないようにしている。また食事・水分摂取量をチェック表で把握するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者に応じて声かけや支援で口腔ケアを実施している。また、ご家族に意向を伺いながら週に1回歯科往診を依頼している方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を観ながら、できる限りトイレで排泄できるよう個々の状態に応じて対応している。また、できるだけトイレで排泄できるように腹部マッサージや水の音を聞いてもらい排尿を促している。	日中はなるべく布パンツに尿パッドを併用して2～3時間毎にトイレ誘導に努めている。ポータブルトイレの使用は夜間のみとしている。入居後に紙パンツから布パンツになった利用者や、尿パッドの使用量が少なくなった利用者があり、排泄が自立している利用者も2名ほどいる。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中は散歩や体操、家事活動などで体をできるだけ動かすように支援している。また、水分摂取にも配慮している。便秘症の方には、冷たい牛乳やセンナ茶など排便効果のある飲み物を提供している。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否がある入居者にはタイミングや声かけなど、工夫して入浴できるようにしている。また、状態に応じて入浴困難な方は、清拭用石鹸、ドライシャンプーで清潔を保てるようにしている。	毎日15時のおやつ時間前後から入浴している。少なくとも週3日の入浴を目指して支援している。入浴を嫌がる利用者には声かけの時間や職員を交替するなど工夫して週1回は入浴できるようにしている。汚れた時や体調に応じて臨機応変にシャワー浴や清拭などを行い清潔保持に努めている。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、家事活動や運動などに参加してもらい安心して夜に良眠できるように関わっている。また、入居者の状態に応じて、日中でも休息を作るなど柔軟に対応している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日誌やチェック表など使って服薬の用法など職員間で情報を共有している。また、服薬前に服薬の心得を読み合わせ意識を高め、二者で服薬確認して服薬介助をしている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や歌、カルタなどのゲーム、花の水やりなどその人に合った趣味や楽しみを把握し、職員が関わるようにしている。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により中庭や玄関に行かれ、外の空気を吸われたり、少人数で散歩や買い物に行く機会を作っている。月に1回は車で外出し花見や外の景色を楽しめる機会を作っている。また、ご家族の協力で田舎に外出される方もいる。	行事担当者が外出計画を立て、月1回は遠出をすることを決めている。桜や芍薬など季節の花見には車で全員が参加して出かけている。散歩は天候を選び、事業所周辺や国道沿いのコンビニエンスストアのあたりまで約半数の利用者が職員の付き添いで外出している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所で預かっている。ご家族に了解を得て移動販売やコンビニエンスストアなどの買い物の際に、お金を使えるように支援している。また、個人で所持している入居者もいる。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や友人などに電話をかけたい場合は、できるように支援している。また、携帯電話を持っている方もいる。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせるように光や温度を調整をしている。また、フロアの壁に、行事で撮った写真を飾ったり、窓辺に花を飾るなど生活感を感じれるように工夫している。	共用空間の窓は採光がよく、利用者は思い思いの居場所で職員や利用者同士で会話を楽しんだり、それぞれに見合った手伝いをして、和やかに過ごしている。窓側にあるカウンターには季節の花や、家族から提供された和洋の人形が飾られて利用者の癒しになっている。行事の時の写真も壁面に飾られて家族的な雰囲気を出している。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の居場所が作れるよう、ソファを3箇所置き、入居者同士が思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に、使い慣れたものや馴染みの物などを持ってきてもらうよう協力を得ている。また、入居者の要望で模様替えを行なうなど居心地良く過ごせるように努めている。	家族の協力でベッド・椅子・整理タンス・テレビ・防炎カーテンなどが持ち込まれている。利用者が見やすいように家族がひ孫の写真を特別大きくして飾っている部屋や、家族からのプレゼントやぬいぐるみなどを置いて、それぞれが居心地よく暮らせる工夫をしている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、居室、廊下などバリアフリー構造にしており、廊下やトイレなどに手すりを設置し、一人一人の状態に合わせ自立した生活が送れるよう配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが			○	3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:2階

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念・夢が浸透できるように職員全体で意味や考え方を統一できるよう朝札などで話し合い理解を深めている。		
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りや保育園の運動会へ参加。また地域交流ホールでいきいき体操に参加することで地域の方と交流を深めている。地域・広報委員会を中心に地域とつながっていく取り組みを検討している。		
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	前回と同様に運営推進会議を通じて、事業所の理解を深められるよう努めている。また、広報誌の作成へ向けての検討も行っている。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、事業所の活動状況等を報告し、各委員の意見を取り入れサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議やグループホーム連絡協議会に参加し、課題などあれば相談できるように協力関係を築けるように心掛けている。		
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア会や勉強会を開催し、身体拘束について話し合い意識を高め、拘束しないケアに取り組んでおり、夜間帯以外は玄関の施錠はしていない。また、声掛けによる抑制についても配慮している。		

7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の講習内容を事業所で勉強会として取り組んでいる。不適切ケアが虐待に繋がることを再認識し、職員間で意識を高めケアに当たっている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当事例はない為、今後も十分理解を深めていく必要がある。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を設け契約、重要事項に基づき説明させてもらっており、ご家族が不安や疑問点を話しできるように雰囲気作りにも心掛けている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際や電話連絡の際に、話しやすい雰囲気を中心掛、こちらからコミュニケーションを図り、意見や要望を伺っている。また、ご家族会や運営推進会議も活用し運営に繁栄できるようにしている。		
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見を言いやすい雰囲気を作っているのに加え、フロア会などで意見を吸い上げられるようにしている。また、幹部会で話し合い意見が反映できるようにしている。		
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境について、その都度職員と面談する機会を設け、意見を聴き考慮している。福利厚生充実により働きやすい職場作りに取り組んでいる。また、やりがいに繋がるように法人内の他施設と介護技術講習会を実施している。その他、交流イベントも実施予定である。		

13	<p><b>○職員を育てる取り組み</b></p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>行政が主催する自立を目指す研修会への参加やフロア長研修の講習内容を毎月の勉強会でフィードバックし、資質向上に努めている。また、日々のケア方法を観察し、リアルタイムに助言している。</p>		
14	<p><b>○同業者との交流を通じた向上</b></p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会へ参加することで情報交換を図ったり、定期的に法人内の事業所と介護技術講習会を開催するなどサービスの質の向上に努めている。</p>		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p><b>○初期に築く本人との信頼関係</b></p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に、心身状況や置かれている生活状況を把握し、どういった生活を送ってきたのか、また、今後どのような生活を送りたいのかご意向など伺い信頼関係を築けるように努めている。</p>		
16	<p><b>○初期に築く家族等との信頼関係</b></p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の段階から、不安や要望が話しやすいように雰囲気作りに心掛け、利用経緯を含めご意向などを聴き関係づくりに努めている。</p>		
17	<p><b>○初期対応の見極めと支援</b></p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>面接時に、ご本人の生活状況をご本人やご家族から聞き取り、他のサービスを含め適しているかを検討している。</p>		
18	<p><b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b></p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人の意思を尊重し、ご本人を介護される一方の立場におかず、意向に沿った介護を基本とし、共に過ごし支え合う関係を大切にしている。</p>		

19		<p><b>○本人を共に支えあう家族との関係</b></p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>心身の状況や生活状況を面会時や必要に応じ電話連絡で伝え、ご家族の意向など聴き、ご家族を支援される一方の立場におかず、ご本人とご家族の関係を大切にしている。</p>		
20	(8)	<p><b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b></p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの関係が途切れないように自由に電話を取り次いでいる。また、来設の際に来やすい雰囲気を中心掛けている。</p>		
21		<p><b>○利用者同士の関係の支援</b></p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士馴染みの関係が築けるように適宜仲介や交流の場を設け一人一人が孤立せずに関わり合い支え合えるよう支援に努めている。</p>		
22		<p><b>○関係を断ち切らない取組み</b></p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約が終了しても病院先へお見舞へ伺うなど関係が途切れないようにしている。</p>		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p><b>○思いや意向の把握</b></p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日頃、関りの中でご本人の意向や思いに耳を傾けまた、表情や会話などを注意深く観察し、意向の把握に努めている。</p>		
24		<p><b>○これまでの暮らしの把握</b></p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居の際に、ご本人やご家族から生活歴を伺い、入居後もご家族から情報を把握するように努めている。</p>		

25		<p><b>○暮らしの現状の把握</b></p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>一人ひとりの一日の過ごし方を観察し、毎日のミーティングや記録を通じて職員間で情報を共有し把握するように努めている。</p>		
26	(10)	<p><b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b></p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>日々のミーティングやフロア会を通じてケアの実践状況や気づきなどを職員間で情報共有すると共に、介護計画に繋がるよう見直しを図っている。また、ご家族にご意向を伺い介護計画の反映に努めている。</p>		
27		<p><b>○個別の記録と実践への反映</b></p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>入居者の日々の様子や状態変化など、個人ケースや日誌に記録している。また、職員間で共有し、介護計画の見直しにつなげている。</p>		
28		<p><b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b></p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ご本人やご家族の状況によっては、通院の付き添いや買い物など柔軟に対応している。</p>		
29		<p><b>○地域資源との協働</b></p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営推進会議で地域代表者から、地域の情報収集に努め、接点を見出せるように努めている。</p>		
30	(11)	<p><b>○かかりつけ医の受診支援</b></p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居者、ご家族の希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。ご家族の付き添いを基本としているが、状況に応じて職員が柔軟に対応している。また、必要なときはかかりつけ医と連絡を取り合い連携を図っている。</p>		



31		<p><b>○看護職との協働</b></p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師は週に1～2回勤務。それ以外でも24時間連絡を取れる体制を作っている。また、看護連携マニュアルに基づき入居者の健康管理について介護職員と共有し、連携を図っている。</p>			
32		<p><b>○入退院時の医療機関との協働</b></p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院の際には、かかりつけ医に定期的に連絡や面会に伺い、早期に退院できるよう連携を図っている。また情報収集や関係づくりに努めている。</p>			
33	(12)	<p><b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b></p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に看取りの指針に基づき、事業所で対応できる支援について説明し、ご家族から同意を得ている。看取り事例はないが、今後、安心して看取りができる体制を作っていく。</p>			
34		<p><b>○急変や事故発生時の備え</b></p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>入居者の急変時に速やかに対応できるように、新人研修や勉強会など機会を設けている。また、定期的に消防機関の協力を得て救命講習を受講する機会を作り、職員のスキルが上がるよう努めている。</p>			
35	(13)	<p><b>○災害対策</b></p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>マニュアルに沿って緊急連絡網を作成し、避難訓練実施している。今回は地域住民の協力は得れなかったが、運営推進会議の地域代表の方と協力体制は築けている。</p>			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	<p><b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b></p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>日頃から入居者を人生の先輩として敬い、日々、携わの中で意思を尊重した言葉かけを心がけプライバシーの配慮に努めている。また、日々の朝礼などで尊厳を守る事を確認している。</p>			

37		<p><b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>ご本人の意思を尊重して、思いや希望が遠慮なく言え、自己決定できる場面づくりに努めている。</p>		
38		<p><b>○日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員の都合ではなく入居者様一人一人のペースを大切に、生活の中で意向を伺いできる限り希望に添えるよう努めている。</p>		
39		<p><b>○身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>起床時に衣服を選んでいただき、その人らしいおしゃれや身だしなみができるように支援している。</p>		
40	(15)	<p><b>○食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の献立や食材調達は業者依頼しており、入居者の嗜好を伝えている。準備や片付けなどできる役割は参加してもらっている。</p>		
41		<p><b>○栄養摂取や水分確保の支援</b></p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>委託業者の栄養士が栄養バランスを考慮し、献立を決め、入居者の状態に応じて、食事形態を考慮し偏らないようにしている。また食事・水分摂取量をチェック表で把握するように努めている。</p>		
42		<p><b>○口腔内の清潔保持</b></p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>入居者に応じて声かけや支援するなど口腔ケアを実施している。</p>		
43	(16)	<p><b>○排泄の自立支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表を用いて、できる限りトイレで排泄できるよう個々の状態に応じて対応している。夜間は個々の状態に応じて夜間用パッドを使用している方もいる。</p>		

44		<p><b>○便秘の予防と対応</b></p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>起床時に冷たい牛乳などを飲用して頂いたり、入居者に応じて飲み物を工夫している。散歩や廊下歩行など運動を取り入れ便秘予防に取り組んでいる。</p>		
45	(17)	<p><b>○入浴を楽しむことができる支援</b></p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入居者の希望に応じて入浴できるように努めている。入浴を拒まれる入居者にはタイミングや声のかけ方など工夫して入浴できるように支援している。</p>		
46		<p><b>○安眠や休息の支援</b></p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中の運動や役割などできる活動に参加してもらい、安心して眠れるよう関わっている。また、入居者の体調に応じて日中、休む時間を作るなど柔軟に対応している。</p>		
47		<p><b>○服薬支援</b></p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>日誌やチェック表など使って服薬の用法など職員間で情報を共有している。また、服薬前に服薬の心得を読み合わせ意識を高め、二者で服薬確認して服薬介助をしている。</p>		
48		<p><b>○役割、楽しみごとの支援</b></p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>外出や散歩、歌など、その方に合った役割や趣味、楽しみを把握し、職員が関わるようにしている。</p>		
49	(18)	<p><b>○日常的な外出支援</b></p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>日常的に少人数で散歩や買い物には出かけている。入居者の意向を伺いながら外出する機会を作っている。また、ご家族の協力を得て住み慣れた地域へ外出されている。</p>		

50		<p><b>○お金の所持や使うことの支援</b></p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的には事業所で預かっている。ご家族に了解を得て移動販売やコンビニエンスストアなどの買い物の際に、お金を使えるように支援している。また、個人で所持している入居者もいる。</p>		
51		<p><b>○電話や手紙の支援</b></p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご家族や友人などに電話をかけたい場合は、できるように支援している。</p>		
52	(19)	<p><b>○居心地のよい共用空間づくり</b></p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間の温度調整や光の調整、外の景色が感じられるように、居心地の良い空間作りに配慮している。</p>		
53		<p><b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b></p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者の居場所が作れるよう、雑誌など本を置くなどして入居者同士が思い思いに過ごせるようにしている。</p>		
54	(20)	<p><b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b></p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご家族に、使い慣れた物や馴染みの物などを持ってきてもらい、今までの生活環境の継続に配慮している。</p>		
55		<p><b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b></p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>フロア、居室、廊下などバリアフリー構造にしており、廊下やトイレなどに手すりを設置し、一人一人の状態に合わせ自立した生活が送れるよう配慮している。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない